



歴博映像フォーラム18

歴博研究映像『黒島民俗誌』より



# フツテージの 活かし方を 考える

2025年

2月15日(土)

13時～16時30分(開場12時30分)



会場 国立歴史民俗博物館 講堂



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館

National Museum of Japanese History

# フッテージの活かし方を考える

日時：2025年2月15日(土) 13時00分～16時30分

会場：国立歴史民俗博物館 講堂

## プログラム

- 
- |             |   |
|-------------|---|
| 13:00～13:10 | 開会の挨拶<br>西谷 大(国立歴史民俗博物館 館長)   |
| 13:10～13:15 | 趣旨説明<br>内田順子(国立歴史民俗博物館 副館長、民俗研究系 教授)                                    |
| 13:15～14:15 | 「歴博研究映像『黒島民俗誌』撮影素材の全体像とその特徴」<br>内田順子                                    |
| 14:15～15:15 | 「黒島民俗誌拾遺—映像が示す過去と現在」<br>川村清志(国立歴史民俗博物館 民俗研究系 准教授)                       |
| 15:15～15:25 | 休憩  |
| 15:25～16:25 | コメントと総合討論<br>コメント①篠原 徹(国立歴史民俗博物館 名誉教授)<br>コメント②大湾ゆかり(沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員) |
| 16:30       | 閉会  |
- 

総合司会

春日 聡(多摩美術大学 非常勤講師、国立歴史民俗博物館 客員准教授)

---

# 開催趣旨

内田 順子(国立歴史民俗博物館)

本フォーラムは、共同研究「歴博研究映像の総合的活用の方法論の構築—沖縄地域の映像を中心に」(2022~2024年度、代表：春日聡)による研究成果の発信として開催するものです。

歴博は、1988年度より、民俗研究の一環として「民俗研究映像(現在の名称は歴博研究映像)」の制作を開始しました。それ以降、フィールドワークによる研究成果を、研究者自身が映画監督の役割を担って、「映像による民俗誌」、あるいは「映像による論文」という形でまとめてきました。これまでに制作した研究映像は、この予稿集の19~20頁をご参照ください。

本共同研究では、沖縄地域の民俗文化を対象に制作された歴博の研究映像を用いて調査を行い、映像を通じて過去と現在を比較することの意義や、映像を記録として保存し、将来的にもアクセス可能な形で残すことの重要性について検討してきました。

これまでに制作した歴博研究映像32作品のうち、沖縄県の民俗や歴史をテーマにしたものは、①『黒島民俗誌』1993年、②『沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—』1996年、③『沖縄の焼物 伝統の現在』2000年、④『ブーンミの島』の4作品があります。

このうち、本共同研究では、①『黒島民俗誌』1993年と②『沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—』1996年を取り上げて、記録映像に基づく研究の可能性を検討してきました。②の『沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—』に関する研究成果は、来年度の映像フォーラムで報告します。本日の映像フォーラムでは、①『黒島民俗誌』についての研究成果を報告します。

『黒島民俗誌』は、歴博の研究映像として1992年度に制作されました(制作担当：篠原徹・菅豊)。「島譜のなかの神々」(59分)と「牛と海の賦」(60分)から成る、約2時間の作品です。その撮影素材として、30分のテープが107本残されています。単純に計算すると、3,210分、すなわち53時間30分の撮影素材があることとなりますが、そのうち、研究映像として使用されたのは約2時間で、全体3,210分の約3.74%しか使っていないこととなります。

1988年に歴博で「民俗研究映像」の制作が始まった当初から、完成作品を制作するだけでなく、撮影した映像もあわせて保存し、将来的に民俗研究の資料として供することを目的のひとつとしていました。本フォーラムでは、『黒島民俗誌』を対象として、そのフッター(未編集の映像素材)の活用の可能性を検討します。

## 登壇者の紹介

しのはら とおる

**篠原 徹**(滋賀県立琵琶湖博物館 名誉館長、国立歴史民俗博物館 名誉教授)

- ・『自然を生きる技術』吉川弘文館、2005年
- ・「記憶される井戸と村—黒島の廃村と伝承—」『村が語る沖縄の歴史』新人物往来社、1999年
- ・『海と山の民俗自然誌』吉川弘文館、1995年
- ・『自然と民俗』日本エディタースクール出版部、1990年

おおわん

**大湾 ゆかり**(沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)

- ・「琉球藍関係資料からの一考察」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』14、pp.133-140、2021年
- ・「糸満市上米次腹門中の墓とジョーアキー(墓開き)儀礼について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』13、pp.127-138、2020年
- ・「竹富町西表島祖納の葬墓制—特別展関連の調査報告—」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』9、pp.89-99、2016年

うちだ じゅんこ

**内田 順子**(国立歴史民俗博物館 副館長、民俗研究系 教授)

- ・『映し出されたアイヌ文化—英国人医師マンローの伝えた映像』吉川弘文館、2020年
- ・『DVDブック 甦る民俗映像 渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った1930年代の日本・アジア』、共編著、岩波書店、2016年
- ・「映像の共有と諸権利：国立歴史民俗博物館における民俗研究を目的とした映像制作を事例として」『社会学評論』65(4)、pp.504-520、2015年3月

かわむら きよし

**川村 清志**(国立歴史民俗博物館民俗研究系 准教授)

- ・『石川県輪島市山王祭フォトエスノグラフィー 祭日編』川村清志・倉本啓之編、2020年
- ・『民俗学読本—フィールドへのいざない—』高岡 弘幸、川村 清志 他編、2019年
- ・『明日に向かって曳け—石川県輪島市皆月山王祭の現在』DVD102分、監督、2016年
- ・『クリスチャン女性の生活史—「琴」が歩んだ日本の近・現代』青土社、2011年

かすが あきら

**春日 聡**(多摩美術大学 非常勤講師、国立歴史民俗博物館 客員准教授)

- ・歴博研究映像『ブーンミの島』、監督：春日聡、製作・著作：国立歴史民俗博物館、2023年
- ・「祭祀芸能における〈音と超越性〉」、細川周平(編著)『音と耳から考える—歴史・身体・テクノロジー—』pp.92-106、アルテスパブリッシング、2021年
- ・「祭祀芸能を記録する—民族誌映像における音の考察」『年刊 藝能』25、pp.41-52、藝能学会、2019年

# 歴博研究映像『黒島民俗誌』 撮影素材の全体像とその特徴

内田 順子(国立歴史民俗博物館)

## 1.黒島について

- 沖縄県八重山郡竹富町
- 石垣島の南西18.5kmに位置する
- 島の周囲は約13km
- 海拔13m

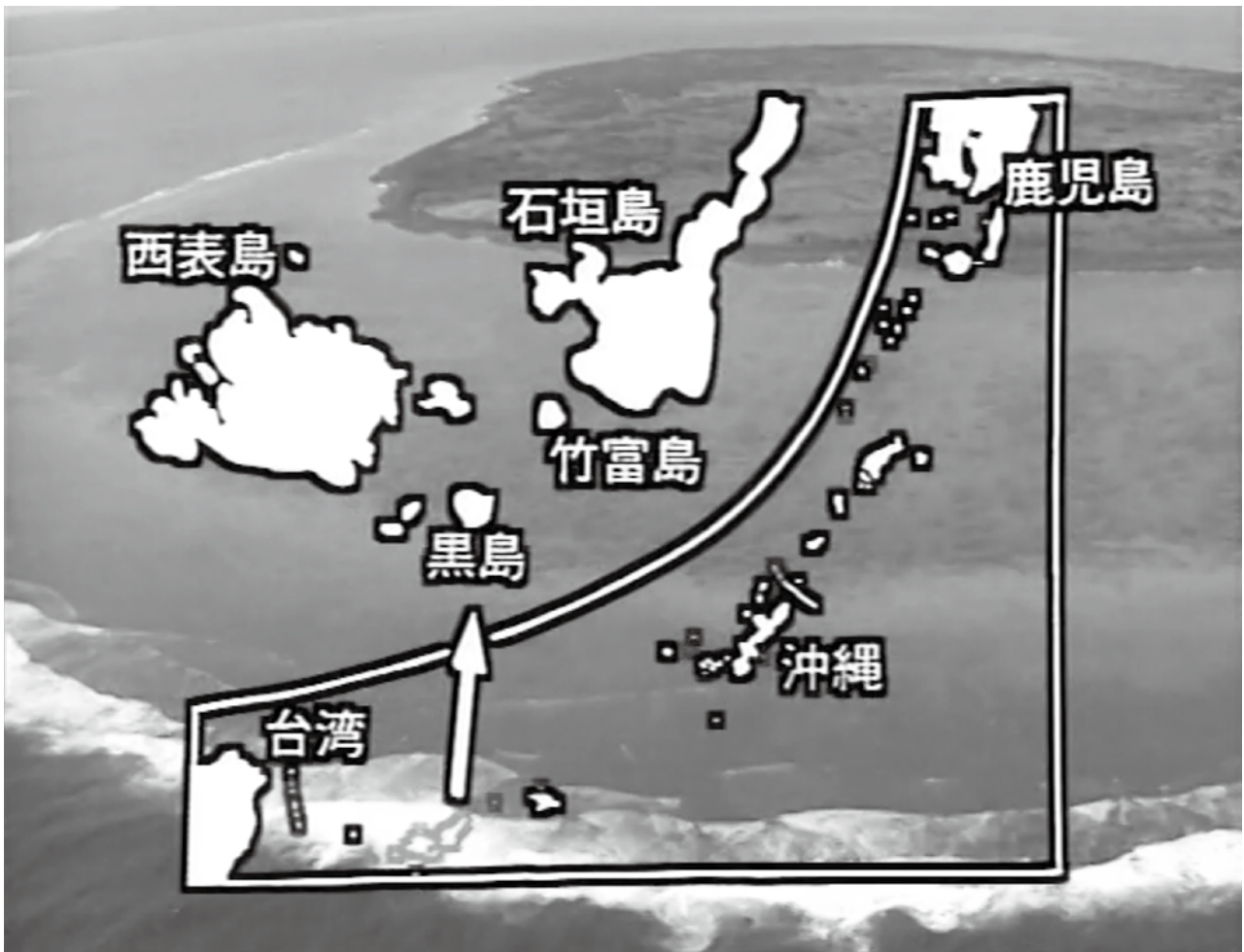


図1 黒島の位置(『黒島民俗誌』)

- 人口(竹富町地区別人口動態票より)

|         | 男   | 女   | 合計  | 世帯数 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| 1993年1月 | 110 | 107 | 217 | 107 |
| 2024年1月 | 116 | 103 | 219 | 133 |

表1 黒島の人口

- 島の主産業は肉牛の牧畜  
牛の数 約2000頭(『黒島民俗誌』)→約3000頭(竹富町HP)

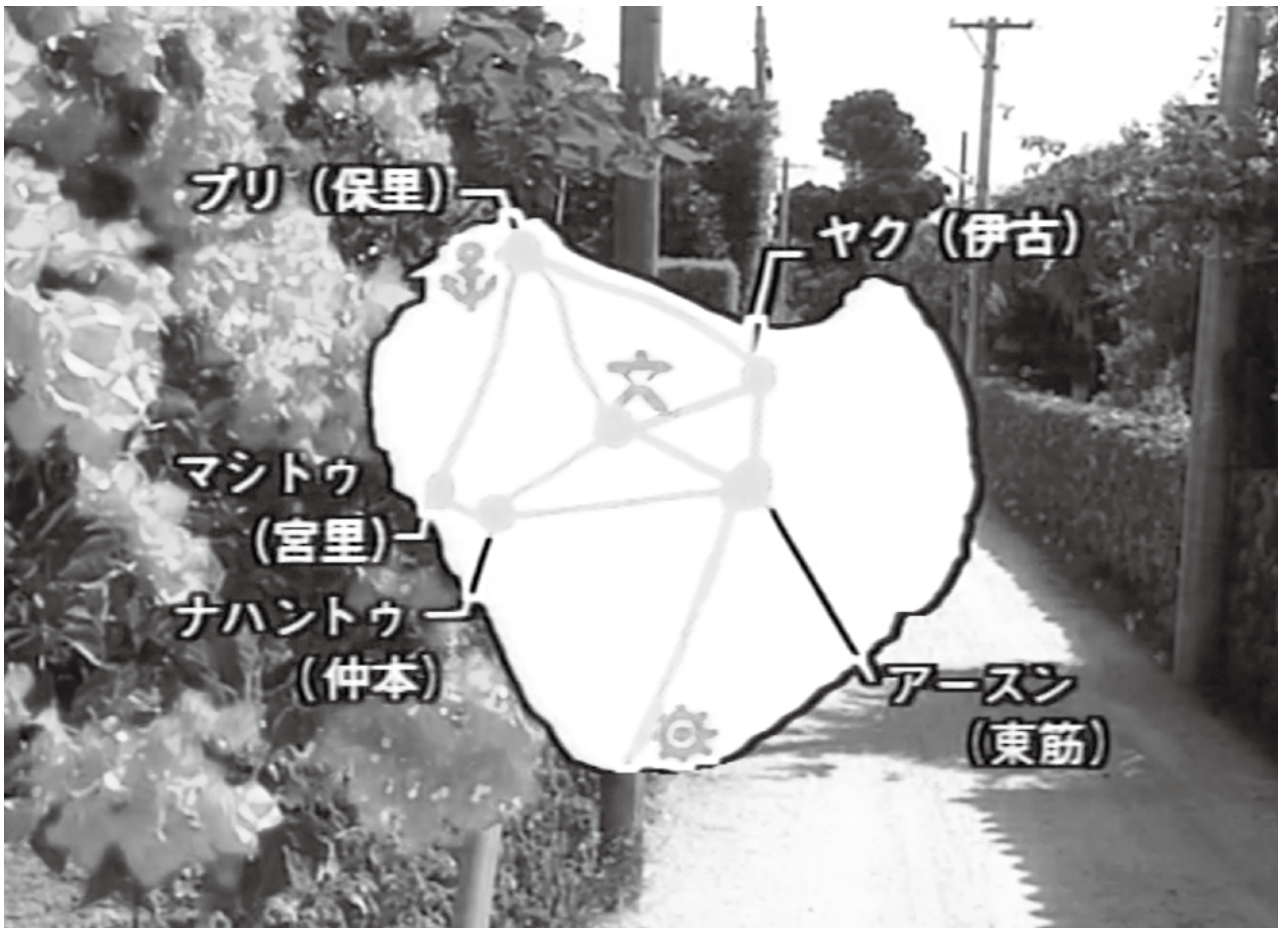


図2 黒島の集落位置(『黒島民俗誌』)

## 2.民俗研究映像『黒島民俗誌』の概要

【制作担当】 篠原 徹・菅 豊

### 【撮影期間】

1992年7月11日～7月21日

1992年10月29日～11月4日

1993年1月21日～1月25日

### 【制作目的】

沖縄県八重山郡竹富町黒島の特徴的な環境が、過去から現在まで人々の日常、および非日常生活にわたって、あらゆる側面に影響を及ぼしてきた状況、そして、その中で生きる人間の可能性を、歴史的、生体的、民俗的な具体的事例をふまえながら映像化しようとする試み。

### 【おもな題材】

- 隆起珊瑚礁の島の自然条件
- 集落の空間構成と環境
- 島に刻まれてきた歴史の中に見られる自然(大津波)との戦い
- 人々に利用されてきた多様な自然、生物、それらを利用する人々の伝統的な営為
- 非日常的な時間における自然との関わり
- 現代に適応する基幹産業(肉牛生産)の組み立て方

【作品の構成】

『黒島民俗誌－島譜のなかの神々』59分



図3 「黒島民俗誌－島譜のなかの神々」タイトル画面

島の人々の「生きる戦略」と、伝統的行事である豊年祭との関わりを、それらの生活と民俗の担い手である若者を中心とした青年会に焦点をあてて描いたもの。

①黒島の概要(地理的特徴、集落の構成、島の主な生業の変遷)

②豊年祭

- ・説明
- ・7月12日 豊年祭準備(打ち合わせ・ハーリー船練習)
- ・7月13日 ツカサの家、オタキでの御願
- ・7月17日 石垣から帰ってきたハーリー船。ハーリー船の練習
- ・7月18日 会場設営(草刈り、テント張り)、牛汁作り、ハーリー競争の作戦会議
- ・7月19日 装束をつけオタキに行く。会場に立てられた旗頭。ハーリー船競争(儀礼的なアサクイのあと、競争開始)。牛汁、芸能の披露。終了後、反省会・宴会



図4 ハーリー船の練習(『黒島民俗誌-島譜のなかの神々』)



図5 牛汁作り(『黒島民俗誌-島譜のなかの神々』)





図6 『黒島民俗誌－牛と海の賦』タイトル画面

牛の飼養と水を巡る問題を中心に切りあげ、自然利用の民俗的側面について、「生きる戦略」を島の人々がいかに開発してきたかという視点から描いている。

- ①黒島の概要(黒島が牛に関して古い歴史をもっていること、牛の飼育の大規模化についての説明)
- ②牛のセリ(7月21日)
- ③牛に関する黒島の話(インタビュー)
- ④黒島で最初に人が住んだとされるアーザト村について(インタビュー)
- ⑤船漕ぎ競争の始まりについての伝承(インタビュー)
- ⑥干瀬に関するインタビュー
- ⑦イザリ(夜漁)
- ⑧アーサ(ヒトエクサ)とり
- ⑨飲み水の確保(瓶→貯水タンク→西表島からの海底送水)
- ⑩早魃と海底送水についてのインタビュー
- ⑪水を得ることによって、島は牛を多く飼う方向へ
- ⑫採草地
- ⑬ぶがりなおし
- ⑭保育所、小学校、中学校の様子
- ⑮三線の練習会
- ⑯郵便局、雑貨を扱う売店

⑰旧正月 綱引き、カシラムトゥの家での宴会

⑱水道の御願



図7 イザリ(夜漁)



図8 採草地



図9 ぶがりなおし



図10 水道の御願

### 3.『黒島民俗誌』の撮影素材の全体像と特徴

#### 【撮影テープ】

- BETACAMSP 30M、107本(約3,210分、約53時間30分)
- 研究映像として使用されたのは約2時間で、全体の約3.74%
- 撮影素材テープの多くにわたって、完成作品に使用されている(表2参照)。撮影前の調査・研究により、十分な撮影計画に基づいて撮影・編集されたと考えられる。

表2 『黒島民俗誌』の撮影テープと作品に使用された部分の対応の概要

| 通し番号 | 撮影年月日                    | テープ番号 | 内容  | 作品に用いられた主な箇所<br>島「島譜」、牛「牛と海の賦」               |
|------|--------------------------|-------|---|--|
| 1    | 1992年7月11日               | R1    | 郷土芸能練習風景(保育所にて)                                     | 牛(サンシンの練習会)                                  |
| 2    | 1992年7月11日               | R2    | 郷土芸能練習風景続き  | 牛(サンシンの練習会：デンサー節)                            |
| 3    | 1992年7月12日               | R3    | 会議、船上から干瀬を案内してもらおう                                  | 島譜(豊年祭の打ち合わせ)、牛(干瀬について)                      |
| 4    | 1992年7月12日               | R4    | 船上から案内  | 牛(干瀬について)                                    |
| 5    | 1992年7月12日               | R5    | 船上から案内  | 牛(干瀬について)                                    |
| 6    | 1992年7月12日               | R6    | 船上から案内  | 海上からの黒島の景観                                   |
| 7    | 1992年7月12日               | R7    | 船上から案内  | 海上からの黒島の景観                                   |
| 8    | 1992年7月12日               | R8    | ハーリー船練習   | 島譜(公民館チームのハーリー船練習)                           |
| 9    | 1992年7月12日               | R9    | ハーリー練習、練習後の話し合い                                     | 島譜(公民館チームのハーリー船練習、練習後の話し合い)                  |
| 10   | 1992年7月12日               | R10   | ハーリー船練習後の話し合い                                       | 島譜(練習後の話し合い、アサクイの歌の練習)                       |
| 11   | 1992年7月12日<br>1992年7月13日 | R11   | 1992年7月12日 ハーリー船練習後の車座の話しあい<br>1992年7月13日 ツカサの家での御願 | 島譜(練習後の話し合い)<br>島譜(ツカサの家での御願)                |
| 12   | 1992年7月13日               | R12   | ツカサの家での神事、ページ(比江地)オタキ                               | 島譜(ツカサの家での御願)                                |
| 13   | 1992年7月13日               | R13   | ページ(比江地)オタキ   | 島譜(ページオタキでの御願)                               |
| 14   | 1992年7月13日               | R14   | ページ(比江地)オタキ   | 島譜(ページオタキでの御願)                               |
| 15   | 1992年7月13日               | R15   | 旗頭の家、旗の説明、ニシハメハ(北神山)オタキ                             | 島譜(ニシハメハでの御願)                                |
| 16   | 1992年7月13日               | R16   | ニシハメハ(北神山)オタキ                                       | 島譜(ニシハメハでの御願・ミキ)                             |
| 17   | 1992年7月13日               | R17   | ニシハメハ(北神山)オタキ                                       | 牛(オオゴマダラ)、島譜(ニシハメハオタキでの御願)                   |
| 18   | 1992年7月13日               | R18   | ニシハメハ(北神山)オタキ、ハブ、歌                                  | 島譜(ニシハメハでの御願)、牛(雨を瓶に貯める)、牛(ハブ)、島譜(ニシハメハでの神歌) |
| 19   | 1992年7月13日               | R19   | ニシハメハ(北神山)オタキ、お墓                                    | 島譜(ニシハメハオタキの始祖の墓での御願)                        |
| 20   | 1992年7月14日               | R20   | 井戸、遺跡   | 牛(ティミジヌハー、アーザト村の跡)                           |
| 21   | 1992年7月14日               | R21   | 遺跡  | 牛(アーザト村の跡)                                   |
| 22   | 1992年7月14日               | R22   | 遺跡、パイフタ(南風保多)オタキ                                    |  |
| 23   | 1992年7月14日               | R23   | パイフタ(南風保多)オタキ、マキウチ、ワタジについての説明                       | 牛(マキウチ・ワタジ)                                  |
| 24   | 1992年7月14日               | R24   | 迎里オタキ、仲石オタキ、中学校、船浦オタキ、浮海オタキ、保里オタキ                   |  |
| 25   | 1992年7月14日<br>1992年7月15日 | R25   | イミスクオタキ、オタキ案内板、仲盛オタキ、阿名泊オタキ、南神山オタキ、ユラキの浜、乾震坤大神      |  |
| 26   | 1992年7月15日               | R26   | 名称不読オタキ、乾震堂、貯水槽、イサンチャー、阿名泊オタキ、喜屋武オタキ、               | 牛(イサンチャーの古墓)                                 |
| 27   | 1992年7月15日               | R27   | 多良間真牛についてのインタビュー                                    |  |

| 通し<br>番号 | 撮影年月日                    | テープ<br>番号 | 内容  | 作品に用いられた主な箇所<br>島「島譜」、牛「牛と海の賦」 |
|----------|--------------------------|-----------|---|--------------------------------|
| 28       | 1992年7月15日               | R28       | 「多良間真牛漂流記」・掛軸                             |                                |
| 29       | 1992年7月16日               | R29       | 船長たち道路端の宴会、ヤシガニ                           | 牛(道路でのぶがりなおし・ヤシガニとり)           |
| 30       | 1992年7月16日<br>1992年7月17日 | R30       | 1992年7月16日 マッコン<br>1992年7月17日 自然、生活空間、道など | 牛(ヤシガニとり)                      |
| 31       | 1992年7月17日               | R31       | 自然、生活空間                                   | 牛(郵便局)                         |
| 32       | 1992年7月17日               | R32       | 自然、もう一艘のハーリー船到着                           | 島譜(石垣から帰ってきたハーリー船)             |
| 33       | 1992年7月17日<br>1992年7月18日 | R33       | 1992年7月17日 ハーリー船練習<br>1992年7月18日 会場設営     | 島譜(ハーリー船練習、会場設営)               |
| 34       | 1992年7月18日               | R34       | 会場設営、牛汁づくり、仲本郷友会準備                        | 島譜(牛汁づくり)                      |
| 35       | 1992年7月18日               | R35       | 仲本郷友会準備、牛汁づくり                             | 島譜(牛汁づくり)                      |
| 36       | 1992年7月18日               | R36       | 牛汁、港・フェリー、ハーリー船練習                         | 島譜(島外から人々到着、仲本郷友会チームのハーリー船練習)  |
| 37       | 1992年7月18日               | R37       | 仲本郷友会チームのハーリー船練習                          | 島譜(仲本郷友会チームのハーリー船練習)           |
| 38       | 1992年7月18日               | R38       | ハーリー船練習続き、仲本郷友会夕食、訓示                      | 島譜(仲本郷友会夕食・監督訓示)               |
| 39       | 1992年7月18日               | R39       | 仲本郷友会前夜                                   |                                |
| 40       | 1992年7月18日               | R40       | 仲本郷友会前夜、郷土芸能練習                            | 島譜(仲本郷友会夕食・挨拶)                 |
| 41       | 1992年7月19日               | R41       | 祭り当日朝、オタキ途中まで                             | 島譜(装束に着替え、オタキに移動)              |
| 42       | 1992年7月19日               | R42       | 仲本郷友会、オタキ、会場                              | 島譜(オタキでクージをつける、会場の旗頭)          |
| 43       | 1992年7月19日               | R43       | 開会式、アサクイまで                                | 島譜(ハーリー船を浜に下ろす。アサクイ)           |
| 44       | 1992年7月19日               | R44       | ハーリー船本番、午前の部                              | 島譜(ハーリー1回戦・2回戦)                |
| 45       | 1992年7月19日               | R45       | ハーリー船、郷土芸能                                | 島譜(牛汁振舞う、芸能)                   |
| 46       | 1992年7月19日               | R46       | 郷土芸能(豊年祭)                                 | 島譜(芸能)                         |
| 47       | 1992年7月19日               | R47       | ハーリー船、ながれ途中まで                             | 島譜(ハーリー3回戦、巻き踊り、ながれ)           |
| 48       | 1992年7月19日               | R48       | ながれ、反省会途中まで                               | 島譜(クージをオタキに返す、反省会)             |
| 49       | 1992年7月19日               | R49       | 反省会、公民館チーム、ぶがりなおし途中まで                     | 島譜(反省会、ぶがりなおし)                 |
| 50       | 1992年7月19日               | R50       | 公民館チーム、ぶがりなおし                             | 島譜(ぶがりなおし)                     |
| 51       | 1992年7月19日               | R51       | ぶがりなおし                                    | 島譜(ぶがりなおし)                     |
| 52       | 1992年7月21日               | R52       | 牛のセリ                                      | 牛(セリ)                          |
| 53       | 1992年7月21日               | R53       | 牛のセリ                                      | 牛(セリ)                          |
| 54       | 1992年7月21日               | R54       | 牛のセリ                                      | 牛(セリ)                          |
| 55       | 1992年7月21日               | R55       | 牛のセリ                                      | 牛(セリ)                          |
| 56       | 1992年7月21日               | R56       | 牛のセリ、牛が港に到着、港でのインタビュー                     | 牛(セリ)                          |
| 57       | 1992年7月21日               | R57       | 港で牛を運ぶ様子                                  | 牛(セリ)                          |
| 58       | 1992年10月29日              | R1        | 「パイフタフンタカ」ほか                              |                                |
| 59       | 1992年10月30日              | R2        | 黒島小学校、音楽授業まで                              | 牛(小学校授業風景)                     |

| 通し<br>番号 | 撮影年月日                      | テープ<br>番号 | 内容   | 作品に用いられた主な箇所<br>島「島譜」、牛「牛と海の賦」      |
|----------|----------------------------|-----------|--|-------------------------------------|
| 60       | 1992年10月30日                | R3        | 黒島小学校、合体、タイムカプセル、給食、サッカー、保育所、おやつ、外遊び途中まで                                     | 牛(保育所おやつ、外遊び)                       |
| 61       | 1992年10月30日<br>1992年10月31日 | R4        | 1992年10月30日 保育園、外遊び後半、植物、蝶、くも、など<br>1992年10月31日 フクギ、8人の位牌についてのインタビュー(*R7に続く) | 牛(外遊び)                              |
| 62       | 1992年10月30日                | R5        | 黒島牛まつり会議   |                                     |
| 63       | 1992年10月30日                | R6        | イザリ  | 牛(イザリ)                              |
| 64       | 1992年10月31日                | R7        | 位牌のインタビュー続き、植物、水牛など  |                                     |
| 65       | 1992年10月31日                | R8        | 歌(ペンガン節・黒島口説・黒島巡り・東筋地歌)  | 牛(ペンガン節)<br>島譜(黒島口説)                |
| 66       | 1992年10月31日                | R9        | 歌(ちんだら節・まへーらついのとーすい)   |                                     |
| 67       | 1992年11月1日                 | R10       | 西表1  |                                     |
| 68       | 1992年11月1日                 | R11       | 西表2  |                                     |
| 69       | 1992年11月1日                 | R12       | 西表3  |                                     |
| 70       | 1992年11月1日～<br>11月2日       | R13       | 西表4  |                                     |
| 71       | 1992年11月2日                 | R14       | 西表5  |                                     |
| 72       | 1992年11月2日                 | R15       | 西表6  |                                     |
| 73       | 1992年11月2日                 | R16       | 西表7  |                                     |
| 74       | 1992年11月3日                 | R17       | 牧場入り口、えさを食べる牛など  | 牛(牛飼育の様子)                           |
| 75       | 1992年11月3日                 | R18       | 牧草刈り   | 牛(牧草刈り等)                            |
| 76       | 1992年11月3日                 | R19       | 牛、ぶがりなおし   | 牛(ぶがりなおし)                           |
| 77       | 1992年11月3日                 | R20       | 牛、ぶがりなおし   | 牛(ぶがりなおし)                           |
| 78       | 1992年11月3日                 | R21       | ぶがりなおし、インサート、古謡「今日が日ヌアヨウ」・「ヤラブ種ヌアヨウ」   |                                     |
| 79       | 1992年11月3日<br>1992年11月4日   | R22       | 1992年11月3日 古謡「サシヌガンヌアヨウ」[浜崎ヌ千鳥アヨウ]<br>1992年11月4日 中学校                         | 牛(サシヌガンヌアヨウ・浜崎ヌ千鳥アヨウ)<br>牛(中学校授業風景) |
| 80       | 1992年11月4日                 | R23       | 1992年11月4日 保育所外景、牧場ドライブングショット、アースン(東筋)集落                                     | 牛(保育所外観)                            |
| 81       | 1992年10月30日                | R1        | 水中撮影   | 牛(水中の様子)                            |
| 82       | 1992年10月30日                | R2        | 水中撮影   | 牛(水中の様子)                            |
| 83       | 1992年10月31日                | R3        | 水中撮影   | 牛(水中の様子)                            |
| 84       | 1992年10月31日                | R4        | 水中撮影   | 牛(水中の様子)                            |
| 85       | 1993年1月21日                 | R1        | 牛のセリ、イサンチャー等、オタキの由来などについてのインタビュー   | 牛(イサンチャーの由来)                        |
| 86       | 1993年1月21日                 | R2        | インタビュー続き   |                                     |
| 87       | 1993年1月22日                 | R3        | インタビュー続き、たま商店、アースとり  | 牛(進貢船の掛軸、たま商店、アースとり)                |
| 88       | 1993年1月22日                 | R4        | アースとり、カラス、うぶは一、学校工事、子牛、アース干し   | 牛(アースとり、カラス、アース干し)                  |

| 通し<br>番号 | 撮影年月日                    | テープ<br>番号 | 内容   | 作品に用いられた主な箇所<br>島「島譜」、牛「牛と海の賦」 |
|----------|--------------------------|-----------|--|--------------------------------|
| 89       | 1993年1月22日               | R5        | 民宿、マリンドレッジ、海中公園(海洋センター)、ヘリポート ※R7のつづき 旧正月の飾り付け(用意) |                                |
| 90       | 1993年1月22日               | R6        | 戦前～戦後の生業等についてのインタビュー                               | 牛(海底送水について)                    |
| 91       | 1993年1月22日               | R7        | インタビュー続き、旧正月の飾り付け ※続きはR5の後半へ                       |                                |
| 92       | 1993年1月23日               | R8        | 旧正月の朝、網引き準備  | 牛(旧正月の朝の放牧風景)                  |
| 93       | 1993年1月23日               | R9        | 旧正月 公民館長宅での歌、ページ(比江地)オアキ・ヤク(伊古)とプリ(保里)の仲盛オタキでの御願   |                                |
| 94       | 1993年1月23日               | R10       | 旧正月 プリ(保里)・ヤク(伊古)の仲盛オタキでの御願                        |                                |
| 95       | 1993年1月23日               | R11       | 旧正月 ヤク(伊古)の仲盛オタキでの御願                               |                                |
| 96       | 1993年1月23日               | R12       | 旧正月 ヤク(伊古)の仲盛オタキでインタビュー、網引き前                       | 牛(網引き前)                        |
| 97       | 1993年1月23日               | R13       | 旧正月 網引き前、網引き、網引き後(ミルク)                             | 牛(網引き)                         |
| 98       | 1993年1月23日               | R14       | 旧正月 網引き後、旗頭・頭元へ                                    | 牛(旗頭、カシラムトゥウの家に)               |
| 99       | 1993年1月23日               | R15       | 旧正月 カシラムトゥウの家での宴会                                  | 牛(カシラムトゥウの家での宴会)               |
| 100      | 1993年1月23日               | R16       | 旧正月 宴会続き、支会長(郵便局長)宅の宴会                             | 牛(カシラムトゥウの家での宴会)               |
| 101      | 1993年1月23日<br>1993年1月24日 | R17       | 1993年1月23日 旧正月 支会長(郵便局長)宅宴会続き、1993年1月24日 ツカサの旧正月   |                                |
| 102      | 1993年1月24日               | R18       | ツカサの旧正月続き  |                                |
| 103      | 1993年1月24日               | R19       | ツカサの旧正月続き  |                                |
| 104      | 1993年1月24日               | R20       | ツカサの旧正月続き、ミルクについてのインタビュー                           |                                |
| 105      | 1993年1月24日<br>1993年1月25日 | R21       | 1993年1月24日 ミルク面<br>1993年1月25日 水道の祈り                | 牛(水道の御願)                       |
| 106      | 1993年1月25日               | R22       | 水道の祈り、プリ(保里)のツカサの家・旧正月                             |                                |
| 107      | 1993年1月25日               | R23       | 1993年1月25日 プリ(保里)のツカサの家旧正月、多良間真牛の墓、<br>『島!美らさ』     | 牛(『島!美らさ』)                     |

# 黒島民俗誌拾遺 —映像が示す過去と現在

川村 清志(国立歴史民俗博物館)

## はじめに

本発表では、『黒島民俗誌』の映像資料と現在の黒島を再リンクするための試みの一端を紹介したい。以下では私たちが2023(令和5)年に黒島を訪れた経験から、30年前の記録を振りかえる。その際に記録撮影した旧正月の諸行事の粗編集を行い、かつての映像の資料的価値と民俗誌的な位置づけを問い直すことにする。

## 黒島、再び—

沖縄の黒島に行くことになったのは、様々な偶然の産物であった。この旅は、その時期、私が副代表を務めていた共同研究会「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究—制作とアーカイブスの実践的方法論の検討—」(2021年度~23年度、以下「映像アーカイブズ研究会」)の一環として行われた。「映像アーカイブズ研究会」は、京都産業大学の村上忠喜教授が代表を務め、近畿地方を中心に記録された祭礼芸能の集約的な映像資料を研究分野で活用するための方途を探ろうとしていた。しかし、世界中を席卷していた新型コロナ(COVID19)のため、記録された祭礼行事の現地調査ができない状態が続いていた。アーカイブされた映像についての様々な課題が議論され、シンポジウムも開かれたが、記録された行事の現在との比較参照という課題には、手をつけることができなかったのである。

ちょうどその頃、歴博がほぼ30年前に制作した『黒島民俗誌』を見直す機会があった。映像を通して、この島の成り立ちと現状に興味を抱いた。偶然は重なり、この作品の監督である篠原徹さんと別件で話をするようになる。そこで民俗誌を視聴した上で、黒島の調査を振り返ってもらう座談会を催すことになった。2022年、7月のことである。

周知のように『黒島民俗誌』は「島譜のなかの神々」と「牛と海の賦」の二部作からなっている。「牛と海」は黒島の生活を支える肉牛飼養の営みを中心に、島での生業や衣食住が描かれる(図1)。対して「島譜」は、主に御嶽での儀礼や旧暦6月に行われる豊年祭のハーリー船競争や民俗芸能を紹介している。ただ「牛と海」のなかでも、旧正月の綱引き行事や石垣島から敷設された水道への「願い」が紹介されていた。これらの映像と篠原さんとの議論を通じて共同研究員たちは、黒島の民俗文化、とりわけ島の祭礼芸能に関心を持つことになる。私自身は、その場で『黒島民俗誌』にも大量のラッシュ(未編集フィルム)があることを内田順子副館長から伺ったことが、今回の発表につながっている。

もっともこの段階ではまだ、新型コロナの勢いは強く、容易に現地調査ができる状態ではなかった。まして外部からの出入りが制限されやすい島嶼部の現地調査は、現実的ではない。しかし、2022年末頃には、国内でも感染者数は落ち着きを見せ始めた。コロナ感染という現象に日本人が慣れ



図1 「牛と海の賦」の最初のシーン

始めたというべきか。篠原さんから紹介いただいた黒島の方に問い合わせたところ、渡航を含めて特に問題はないという返事をいただいた。彼とのやりとりのなかで、篠原さんが映像撮影していた頃は休止されていた行事が再開されていることも伺い、研究会のスタッフでの現地調査と映像記録、さらにフィールドの先達として篠原さんに同行してもらうことが決まったのである。



図2 「島譜のなかの神々」の冒頭シーン

## 黒島調査の概要

「島譜のなかの神々」は、航空撮影(図2…一体、幾らかかったのだろうか?)による島の全景とともに次のようなナレーションではじまる。

ここは、沖縄県八重山郡竹富町黒島である。古くはシマと呼ばれていた。石垣島から約13km、北東には竹富島、北側には西表島がある。南にはパナリ焼で有名な新城島<sup>あらぐすく</sup>がある。牛、約2000頭、人、約200人、5つの集落からなる直径約4km、周囲13kmの隆起珊瑚礁の小さな島である。



図3 黒島の集落(「島譜のなかの神々」より)

黒島の地理的、統計的な説明がこの後も続く(図2)。驚くべきことに島の人口は、篠原さんが調査した30年前とほとんど変わらない。2020(令和2)年の国勢調査では193名となっており、10代や20代も一定数、生活している。日本の全国津々浦々で進行している過疎化・高齢化に抗う共同体として、黒島は位置づけられる。本州はもちろん、沖縄本島からも遥か離れた小島で人口とコミュニティが維持されている。私が黒島に関心を抱いたのは、このコミュニティの推移によるところが大きい。もちろん、大きく変化したこともある。篠原さんが調査した頃、約2000頭とされた牛の頭数は、現在では3000頭を超えている。この食肉牛生産の伸びが、島に住む人々の生活を支えていることは間違いない。ちなみに黒島には、石垣からの船がつく港に程近い保里の他、伊古、宮里、仲本、東筋の5つの集落がある(図3)。今回、主に記録を行ったのは、旧正月の行事が復活していた仲本、そして黒島民俗誌でも綱引きが紹介された東筋の2つの集落である。

黒島でのフィールドワークは、2023年の1月20日から24日の期間で実施した。20日は移動日で石垣島に宿泊したため、現地での調査は当初、4日間の予定であった。ただし24日は天候がすぐれず、船の欠航の可能性が高まった。黒島に滞在するのは1月23日の午後過ぎまでとなり、石垣島に1日早く戻ることにした。実質21、22、23日午前の2日半が主な調査期間となっている。

この調査では日程の制約から、黒島における旧正月の行事次第について、参与観察を行うことを主目的とした。そもそも「映像アーカイブズ研究会」の代表である村上教授は、京都の祇園祭を中心とす



る都市祭礼を研究の主軸としてきた。研究会でも、近畿地方で複数の地域で同時並行的に行われる祭礼芸能の映像の検証を研究テーマとしていた。このような関心から黒島の複数の村落で行われる同種の行事を並行して参与観察することを希望していた。

21日、我々は宿泊する仲本集落の民宿に荷物を置き、早速、島内を移動することになる。まず、「島譜のなかの神々」で紹介された東筋の比江地御嶽を訪れた。また、島内の中心部にある学校や島で唯一の雑貨店など、ランドマークとなる場所を巡った。その後、仲本の集落広場に戻ると、ちょうど旗頭を製作していた。篠原さんが旧交を温める姿とともにその準備の様子を記録させてもらう(図4、5)。

22日の午前中、仲本集落の公民館前にて旧正月の行事次第を記録した。午後から引き続き仲本の記録撮影を行った後、東筋の旧正月の参与観察に向かう。ここでは行事の終了後に、東筋の黒島伝統芸能館での祭りの打ち上げ、さらにその後、かつての話者の自宅での宴にお邪魔して、聞き取りと記録を行った。

23日の午前中は、これまで訪れる機会のなかった島の北部や東部、豊年祭が行われる海岸の様子を記録撮影した。その際、島の北部に広がるリーフや、いくつかの御嶽を訪れた。なお、既述したように1日早く石垣島に戻ったため、24日は、篠原さんが黒島に行く契機となった「石垣やいま村」の巡検を行い、調査を終えた。

### 旧正月の行事次第

まず、仲本集落での旧正月行事について紹介する。こちらは、旗頭制作の記録から始まる。旗頭は各村のシンボルとして正月行事や豊年祭などのハレの日に掲げられる。村や住民の繁栄を祈念した、



図4 仲本集落の旗頭の準備



図5 飾りつけられた旗頭



図6 祭壇の準備の様子



図7 ハスノハグリの葉に載せられた祭りの食事

めでたい意匠が考案されてきた。旗頭の飾り部分は木や竹で作られ、複数年にわたって使用できるものが多い。実際、後に述べる東筋の旗頭は、木材を加工し、彩色されていた。

対して仲本の旗頭は、飾り部分が植物の葉で作られている。毎年、村の人々によって一から制作される。さらに大根やニンジン、サツマイモなどの根菜類とアワやモロコシなどの穀物が飾られる。雑穀は、この儀礼のために仲本集落の方が育てている。

22日の午前中、人々は公民館前の祭壇の前に集まる。祭壇の前には、ブルーシートが敷かれ、村の人たちが腰を下ろしていく。神司となる女性たちがお供えを整え、神事を行う(図6)。その後、村の人たちに御神酒の盃と食事を回していった。村の代表や青年会代表から挨拶があり、人々は一旦、家に戻る(図7)。

昼過ぎ、太鼓の音が聞こえはじめると、再び、人々が広場に集まってくる。人数が揃うと、太鼓とドラに合わせて、正月ユンタが歌われる(図8)。正月ユンタの歌詞は、広場の前の看板に記されている。ユンタが興にのると女性を中心にカチャーシの踊りがはじまり、競うように踊りが行われる。この後、軸柱に付けられていた旗頭が降ろされ、男たちが「サアー、サアー、サアー」の掛け声とともに旗頭を高くかざしていった(図9)。

以上で仲本の行事は一段落したため、東筋に向かうことになる。「島譜のなかの神々」では、東筋の踊りと大綱引きが紹介されている。しかし、実際の旧正月行事では、綱引きの前後に板の上に乗った若者による棒術の行事やミルクが五穀の種子を授ける行事が行われる。この一連の行事を篠原さんは全く記憶しておらず、現場では、自分が調査をした後に始めたのだらうと語っていた。映像の編集が人の記憶に影響を与えることを示す事例である(図10)。

午後1時半、東筋で行事が行われる黒島芸能館前の広場に到着した。神司の女性や村の主だった人々が待機するテントも設置されている。島内の拝所で祈願を済ませた神司が戻ると、行事の始まりにあたってドラと太鼓が叩かれる。集落の家々からは、帰省者を含めて多くの人々が集まってきた。こちらでも新年の寿ぎとなる正月ユンタを歌う。さらに女性たちが踊りながら広場の中心に集まった。



図8 正月ユンタの囃子と歌い手



図9 旗頭を担ぎ上げる



図10 豊年祭に登場したミルク(「牛と海の賦」より)

次に南北に分かれて、武者姿の化粧をした中学生による棒術が始まる。「ツナヌミン」と呼ばれる武将の戦いを題材とした芸能である。男たちが武者を乗せた板を担ぎ上げ、南と北から歩み出し、広場の中央で拮抗する。そこで武者は掛け声とともに殺陣を演じる。この殺陣は何度か繰り返され、棒術だけでなく一方がカマを持った殺陣を演じることもある(図11)。



図11 中学生による棒術

棒術が終わると村の北と南に分かれて大綱引きがはじまる。今日では、港がある北が勝つと豊漁となり、畑が広がる南が勝つと豊作になると言われている。もっとも、かつての綱引きは、南北の筋ではなく東西の通りで行われていたと篠原さんは語っていた。この大綱引きも、コロナのために3年ぶりの実施であった(図12)。今回は、南側に人が集まったためか、開始して間もなくズルズルと綱が南側に引かれていき、短時間で南の勝ちとなった。



図12 大綱引き、篠原さんも参加する

綱引きが一段落すると、再び、通りの南北で人々が先ほどの板をもちだし、準備を始める。やがて通りの南から稚児とともに村長役が現れ、北からは五穀の種子を携えたミルクが登場する。両者は再び広場の中心で相見え、ミルクが祝福した五穀の種子を村長役に授けて行事は終了した(図13)。この後、行事の実行委員から挨拶が行われた。



図13 ミルクから五穀を授かる儀礼

### おわりに—いくつかの課題

さて、これらの映像をまとめた意義と今後の課題について考えておきたい。当初、検討したのは、既にあるラッシュを使って全く違う映像民俗誌が作れないかというものである。現在の研究会の3倍以上の経費を費やして制作したため、使われなかった映像も大量にある。これらの未編集フィルムを用いて、篠原さんが言及しなかった黒島の姿を描き出すことができないだろうか。もっとも、これまで閲覧したラッシュには、それほど新しい情報がまとまって記録されてはいないようである。行事での芸能の所作や宴会の様子が長時間にわたり記録されたものが多かった。ラッシュの検証は、研究資料として活用されるべき内容がより多く見いだせそうである。

次に現在の黒島の映像を補足的に扱いながら民俗誌としてより全体的な黒島の姿を描き出すことも考えた。作品としての『黒島民俗誌』には、十分に描ききれていないテーマが散見される。その一つが、

黒島の郷友会の存在である。「島譜のなかの神々」の前半では、石垣から郷友会が訪れて、豊年祭の打ち合わせをする場面が描かれている。島の外部の組織が黒島、あるいは黒島の各集落とどのような関係があり、どのような影響を与えているのか。これらについて当時の調査が十分でなかったことは、篠原さん自身が2022年の座談会で認めていた。島の内外との往来を含めたダイナミックな社会関係をテーマとする映像制作が構想されてもい

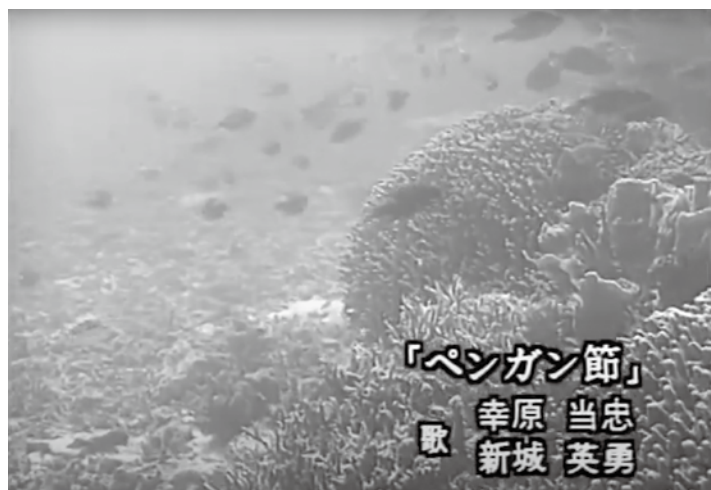


図14 水中映像(「牛と海の賦」より)

いだろう。この課題と関連して、篠原さんと現地調査を行って浮き彫りとなったことがある。それは、『黒島民俗誌』には島内の人間関係がほとんど描かれていない、という点である。篠原さんはこの旅を感傷旅行と呼び、かつての島の友人との再会を楽しんでいた。各々の話者について、その人となりやエピソードの数々をこれでもかと開陳してくれた。話者と彼の奥さんとの馴れ初めや朝まで飲み明かした道の辻での出来事、あまり公にはできないニックネームを付けられたことなど、それらはフィールドワーカーとして地域に根を下ろした篠原徹という民俗学者の調査スタイルを想起するには十分であった。

しかし、民俗誌映像には、村の人々の個々の個性や生活の背景、さらにはフィールドワーカーたる篠原さんとの関係性については、ほとんどテーマ化されず、説明もされていない。作品としての『黒島民俗誌』には、現地の人々の顔が見えてこない、ともいえる。少なくとも篠原さんが滔々と語る豊かで複雑な個性を有する個人の姿は見られない。例えば、こんなエピソードがある。『黒島民俗誌』では何度か沖縄民謡が挿入される。なかには、黒島のリーフを映した水中撮影(こちらも、一体、いくらかかったのだろうか?)の映像を背景に沖縄民謡が挿入されている(図14)。そのなかの一曲は、メジャーな歌手ではなく、黒島の青年が歌ったものであった。しかし、この音楽が、現地の話者によるものか、任意の沖縄民謡を挿入したものかは、大抵の観覧者には判断がつかないだろう。ちなみにこの青年は、現在では石垣島に在住して、沖縄音楽と洋楽をフュージョンさせた音楽バーを営んでいる。

最後に、より今日的なテーマを見出すことができないかと考えている。今回、記録した映像の中には、行事以外に我々が泊まっていた宿での映像がかなりの量を占めている。同じ宿の宿泊者のなかには、本州からこの島に嫁いだ方の友人たちがいた。その女性は篠原さんのインフォーマントの家に嫁いでいた。彼女が友人に会うために宿に来ると、篠原さんは自分の映像を披露し、かつてのフィールドのエピソードを泡盛の続く限り喋り続けていた。その様子の一部が記録映像に残ったわけである。

島には彼女のようなIターンの人たちが、何人も生活している。私たちが宿泊した宿のご主人もIターンで島にやってきた一人である。彼は旧正月の行事でも太鼓を叩き、仲本集落の中心的な役割を担っていた。黒島では、高校進学を契機に子供たちが島から出ていくことが多い。にもかかわらず、島の人口は比較的安定しており、若い世代も育っている。その背景には外部からの移住者がいて、彼ら彼女らが世帯を持つケースが多いからである。ならば、この島のネイティブとIターンとの関係性をテーマ化することで、現在の黒島社会の内実深く切り込むことができるかもしれない。

以上、漠然とした提案の域を出ないものの、『黒島民俗誌』のリファインの可能性について考えてみた。いくつかの偶然が重なれば、これらの案は実践に向けて動き出すのだろうか。

## 国立歴史民俗博物館の研究映像

歴博では1988年より、民俗研究の一環として「民俗研究映像」の制作をおこなってきました。①現在の民俗の記録であること、②民俗誌的な映像記録であること、③研究資料としての映像記録であること、そして④研究成果の発表の手段としての映像による論文であること、という基本方針のもと、制作担当者である研究者自身が、企画から完成までの全てのプロセスに関わり、撮影や編集など、それぞれの研究対象に応じた工夫を凝らし、制作している学術映像です。現在、「歴博研究映像」として受け継がれています。

歴博研究映像一覧表

| 制作年度   | 題名  | 制作担当者                | 規格  |
|--------|---|----------------------|---|
| 昭和63年度 | 芋くらべ祭の村—近江中山民俗誌—  | 上野和男<br>岩本通弥<br>橋本裕之 | カラー・日本語・100分                              |
| 昭和64年度 | 鹿島様の村—秋田県湯沢市岩崎民俗誌—  | 岩井宏實<br>福原敏男         | カラー・日本語・59分                               |
| 平成2年度  | 椎葉民俗音楽誌1990   | 小島美子                 | カラー・日本語・120分                              |
| 平成3年度  | 金沢七連区民俗誌 第1部 都市に生きる人々<br>第2部 技術を語る                          | 小林忠雄<br>菅豊           | カラー・日本語・70分<br>カラー・日本語・45分                |
| 平成4年度  | 黒島民俗誌—島譜のなかの神々—<br>黒島民俗誌—牛と海の賦—                             | 篠原徹<br>菅豊            | カラー・日本語・60分<br>カラー・日本語・60分                |
| 平成5年度  | 景観の民俗誌 東のムラ・西のムラ  | 福田アジオ<br>篠原徹<br>菅豊   | カラー・日本語・各58分                              |
| 平成6年度  | 観光と民俗文化—遠野民俗誌94/95—<br>民俗文化の自己表現—遠野民俗誌94/95—<br>遠野の語りべたち    | 川森博司                 | カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・29分 |
| 平成7年度  | 沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—   | 比嘉政夫                 | カラー・日本語・110分                              |
| 平成8年度  | 芸北神楽民俗誌 第1部 伝承<br>芸北神楽民俗誌 第2部 創造<br>芸北神楽民俗誌 第3部 花           | 新谷尚紀                 | カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・48分<br>カラー・日本語・29分 |
| 平成9年度  | 風の盆ふい—りんぐ—越中八尾マチ場民俗誌—                                       | 小林忠雄                 | カラー・日本語・90分                               |
| 平成10年度 | 大柳生民俗誌 第1部 宮座と長老<br>大柳生民俗誌 第2部 両墓制と盆行事<br>大柳生民俗誌 第3部 村境の勧請縄 | 新谷尚紀<br>関沢まゆみ        | カラー・日本語・70分<br>カラー・日本語・36分<br>カラー・日本語・16分 |
| 平成11年度 | 沖縄の焼物—伝統の現在   | 松井健<br>篠原徹           | カラー・日本語・83分                               |
| 平成12年度 | 風流のまつり 長崎くんち  | 福原敏男<br>久留島浩<br>植木行宣 | カラー・日本語・94分                               |
| 平成13年度 | 金物の町・三条民俗誌  | 朝岡康二<br>内田順子         | カラー・日本語・90分                               |
| 平成14年度 | 物部の民俗といざなぎ流御祈禱  | 松尾恒一<br>常光徹          | カラー・日本語・83分                               |
| 平成15年度 | 出雲の神々と祭り 第1部 美保神社<br>出雲の神々と祭り 第2部 佐太神社<br>出雲の神々と祭り 第3部 荒神祭り | 関沢まゆみ<br>新谷尚紀        | カラー・日本語・52分<br>カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・15分 |

| 制作年度   | 題名  | 制作担当者               | 規格   |
|--------|---|---------------------|--|
| 平成16年度 | 現代の葬送儀礼<br>地域社会の変容と葬祭業—長野県飯田下伊那地方<br>村落における公共施設での葬儀<br>—長野県下條村宮嶋家<br>都市近郊における斎場での葬儀<br>—長野県飯田市佐々木家<br>葬儀用品問屋と情報 | 山田慎也                | カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・45分<br>カラー・日本語・45分 |
| 平成17年度 | AINU Past and Present<br>マンローのフィルムから見えてくるもの   | 内田順子<br>鈴木由紀        | カラー・日本語・102分   |
| 平成18年度 | 伝統鴨猟と人々の関わり<br>—加賀市片野鴨池の坂網猟—  | 安室知                 | カラー・日本語・37分  |
| 平成19年度 | 興福寺 春日大社<br>—神仏習合の祭儀と支える人々—<br>薬師寺 花会式—行法と支える人々—  | 松尾恒一                | カラー・日本語・71分<br>カラー・日本語・71分                               |
| 平成20年度 | 筆記の近代誌—万年筆をめぐる人びと—[本編]<br>筆記の近代誌—万年筆をめぐる人びと—[列伝篇]   | 小池淳一                | カラー・日本語・52分<br>カラー・日本語・99分                               |
| 平成21年度 | 平成の酒造り[製造編]<br>平成の酒造り[継承・革新編]   | 青木隆浩                | カラー・日本語・88分<br>カラー・日本語・88分                               |
| 平成22年度 | アイヌ文化の伝承—平取 2010<br>アイヌ文化の伝承—白老 2010  | 内田順子                | カラー・日本語・40分<br>カラー・日本語・40分                               |
| 平成23年度 | 比婆荒神神楽—地域と信仰—   | 松尾恒一                | カラー・日本語・69分  |
| 平成24年度 | 石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新—[本編]<br>石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新—[技術編]<br>石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新<br>—[インタビュー編]                               | 松田睦彦                | カラー・日本語・69分<br>カラー・日本語・51分<br>カラー・日本語・59分                |
| 平成25年度 | 盆行事とその地域差—盆棚に注目して—<br>土葬から火葬へ—両墓制の終焉—<br>甕島の盆行事   | 関沢まゆみ               | カラー・日本語・50分<br>カラー・日本語・28分<br>カラー・日本語・20分                |
| 平成26年度 | 屋久島の森に眠る人々の記憶   | 柴崎茂光                | カラー・日本語・80分  |
| 平成27年度 | 明日に向かって曳け<br>—石川県輪島市皆月山王祭の現在—   | 川村清志                | カラー・日本語・102分   |
| 平成28年度 | モノ語る人びと 津波被災地・気仙沼から   | 葉山茂                 | カラー・日本語・63分  |
| 平成29年度 | 二五穴—この水はどこへ行くのか—<br>二五穴—水と米を巡る人びとの過去・現在・未来—   | 西谷大<br>島立理子<br>内田順子 | カラー・日本語・20分<br>カラー・日本語・40分                               |
| 平成30年度 | からむしのこえ   | 分藤大翼                | カラー・日本語・93分  |
| 令和4年度  | ブーンミの島  | 春日聡                 | カラー・日本語・113分   |

# ご案内

## 【展示のご案内】

- ・企画展示「時代を映す錦絵―浮世絵師が描いた幕末・明治―」  
2025年3月25日(火)～5月6日(火・休)
- ・第3展示室特集展示「和宮ゆかりの雛かざり」  
2025年2月18日(火)～3月30日(日)

## 【催事のご案内】※聴講無料

- ・第459回歴博講演会「江戸の町と浮世絵」  
2025年3月8日(土)13:00～15:00  
講師：大久保 純一(国立歴史民俗博物館 情報資料研究系 教授)

## 【歴博の情報発信】

国立歴史民俗博物館の企画展示・特集展示・フォーラム・講演会等の情報は、ウェブサイト・X(旧Twitter)・YouTube・ニュースレター(メルマガ)でもご案内しています。

- ウェブサイト <https://www.rekihaku.ac.jp/>
- X(旧Twitter) @rekihaku
- YouTube <https://www.youtube.com/@NMJH>
- ニュースレター ウェブサイトのトップ画面右上にあるアイコンより「歴博とは」のページを開きます。下にスクロールして表示される登録画面よりメールアドレスを送信してください。

---

歴博映像フォーラム18

## フッターの活かし方を考える

発行日 2025年2月15日  
編集・発行 国立歴史民俗博物館  
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117  
Tel.043-486-0123(代)

---



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
**国立歴史民俗博物館**  
National Museum of Japanese History

ISBN 978-4-909293-25-1



9784909293251